

## 第3回科学館協議会でいただいたご意見

	No.	ご意見の概要
フロア構成等	1	4階「科学の探究」で物理、化学、生物、地学の4分野の基本原則を取り上げているのは「科学館学習」に対応する上で有効。
	2	4階「くらしと科学」において、すべてを網羅するのは難しい。個々の学びに向かうためのプラットフォーム、ハブのような役割として構成していくことが望ましい。
	3	この科学館の良いところは「使いやすい」ところ。特に子どもを連れてくる母親層にその使いやすさを感じてほしい。3階「サイエンススポットライト」はその視点も盛り込んで構成するとよい。（ママサイエンティストをつくることも大切）
	4	3階「サイエンススポットライト」はフレキシブルに対応できるスペースという点で活用が期待できる。
	5	展示物だけでなく、その展示を気持ちよくみられるような空間演出を考えていくとよい。
防災	6	「防災」は重要なテーマであるが、地学と災害（防災）が直結するような誤解は回避しなければいけない。災害や防災以上に地球の活動、壮大な営みや自然の恵みを強く大切に打ち出してほしい。
	7	「防災」については、間違った理解にならないようにしなければいけない。所詮自然には敵わないということや自然に対する謙虚さも教えなければいけない。科学技術の使い方を間違えてはいけない。正しく伝わるような解説や見せた方が重要と考える。
	8	「防災」をとらえる際、地震や津波、台風や豪雨だけでなく、地球温暖化などの地球環境問題まで大きくとらえてほしい。その辺を含めれば、地学だけでなく、「くらしと科学」のエリアでも「防災」を展開できる。
	9	「防災」は地学のみならず、あらゆる学術分野にまたがる総合的な内容であることから、例えば3階の「くらしと科学」の先端的分野にも関連付けることが可能と思う。
	10	例えば50mm、100mmの雨が降るとというのがどういう感覚なのか、津波もどういう水の流れなのか、物理的に言えばどのくらいの力、圧力なのか。そういうことを体験的に理解できるとよい。
サイエンストレーニング	11	幼児向けではない「サイエンストレーニング」は小学校高学年や中学生の子どもたちの学びの深化につながる感じる。
	12	「サイエンストレーニング」には、どんなデータをどのように取るか、またそのデータをどう整理・分析するかといった問題解決に必要な科学的な考え方を培う要素があってもよいのではないか。
	13	様々な自然の事象、現象からその原理や法則を導くのが科学の役割と考えたとき、「具体」を「抽象化」していくトレーニングの場としても活用できるのではないか。

	No.	ご意見の概要
その他	14	科学の面白さを伝えることを考えたときに、展示物だけでなく、「人」が大切と考える。例えば、台原森林公園の自然についても面白さを伝える「人」がいるかないかでは大きく違う。子どもに科学のわくわく感を伝える「人」の配置についても検討してもらいたい。
	15	エントランスの活用アイデア3「ミュージアムパーク」について、昨今のフィールドワークの困難状況を考えると、せっかく設置しても活用されないことも考えられる。専用の担当者として「人」を配置してフィールドへ誘う対応が求められるのでは。